

福病監発第12号
令和6年9月27日

福生病院企業団
企業長 吉田 英彰 様

福生病院企業団
監査委員 渡 辺 晃

監査委員 下 野 義 子

令和5年度福生病院企業団病院事業決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、福生病院企業団病院事業決算について審査した結果、別紙のとおり意見を付します。

令和5年度福生病院企業団病院事業決算審査意見書

1 審査の対象

令和5年度福生病院企業団病院事業決算

2 審査の期日及び実施場所

令和6年8月28日（水） 公立福生病院2階大会議場

3 審査の着眼点

決算計数の正確性、財務諸表の適正性、決算内容の妥当性（経営活動が合理的かつ能率的に行われているか）等。

4 審査の主な実施内容

既に実施済の例月出納検査の結果も踏まえ事務長及び経理課職員による説明を聴取して審査を実施した。

5 審査の結果

審査に付された決算、証書類、事業報告書、その他の書類は、いずれも関係法令に基づき作成されており、適正に表示しているものと認められた。

また、予算の執行は、おおむね適正に執行されているものと認められた。

6 審査意見

日本銀行が目標としている消費者物価指数は2%以上で推移しており、医療資源も例外なく上昇する中で、当院では救急医を招聘し積極的に救急患者の受け入れを行い、地域住民のための医療に応えるべく、適正な病院運営に常日頃より注力していることが窺い知れた。

決算については、令和2年度から継続していた新型コロナウイルス感染症関連の補助金等がなくなっている。そのため、年度間の数値の増減や指標等を単純に比較することに適さない状況ではあるが、経営基盤の安定化を図るためには十分な分析が必要である。

業務実績については、入院患者数及び病床稼働率が前年度を下回った。収益面では入院患者数が減少したことにより医業収益が減少し、新型コロナウイルス感染症関連の補助金が無くなり医業外収益も減少した。費用面では、医業収益が減少したことに伴い材料費は減少し、雑損失が減額したことにより医業外費用も減少したが、結果として赤字決算となった。

資金収支では、総合医療情報システムの支払いに伴い、年度末の資金残高 37 億 3,805 万 1,861 円となり、対前年度比 16 億 4,758 万 4,158 円の減少となった。

コロナ禍の終焉を機に通常の経済活動を取り戻しつつある中、ロシアによるウクライナ侵略による原材料価格の上昇や円安の影響を背景に物価高騰の厳しさが増している。そのような中でも当院は適正な人材確保、医療機器の整備、施設設備の老朽化対策などの投資は必要不可欠なものであるため優先的に取り組む必要があると思われる。

最後に、令和2年度から令和5年度にかけてコロナ禍を奮闘していただいた松山企業長に感謝を申し上げるとともに、令和6年度からは吉田企業長を筆頭に新体制で病院の理念であ

る信頼され親しまれる病院を目指していただきたい。

7 審査の概要

(1) 業務実績

年間延患者数は入院、外来ともに減少した。患者一人一日当たりの診療収入単価は入院が減額し、外来が増額した。救急診療患者数はコロナ患者の救急搬送件数が少なくなり減少した。

区 分	令和5年度	令和4年度	比較増減	増減比率
年間延患者数				
入院	60,497 人	70,675 人	△10,178 人	△14.4%
外来	139,576 人	163,245 人	△23,669 人	△14.5%
患者一人一日当たりの診療収入単価				
入院	59,782 円	63,460 円	△3,678 円	△5.8%
外来	14,267 円	13,998 円	269 円	1.9%
救急診療患者数	7,389 人	15,487 人	△8,098 人	△52.3%

(2) 収益的収支（税抜き）

病院事業収益では、大きく減額となった。医業収益は入院、外来ともに延患者数が減少し、加えて新型コロナウイルス感染症関連の補助金が減額したことにより医業外収益も減少した。また、医業費用は医業収益が減少したことに伴い材料費が減少し、雑損失が減額したことにより医業外費用も減少した。

その結果、当年度は14億4,736万4,210円の純損失を計上し、対前年度比22億5,273万4,363円減少しており、病院事業収益の減少が大きく影響している。

区 分	令和5年度	令和4年度	比較増減	増減比率
病院事業収益				
医業収益	7,320,742,657 円	10,009,504,004 円	△2,688,761,347 円	△26.9%
医業外収益	5,765,269,037 円	6,945,168,603 円	△1,179,899,566 円	△17.0%
特別利益	1,551,847,762 円	3,059,798,943 円	△1,507,951,181 円	△49.3%
特別利益	3,625,858 円	4,536,458 円	△910,600 円	△20.1%
病院事業費用				
企業団管理費	8,768,106,867 円	9,204,133,851 円	△436,026,984 円	△4.7%
企業団管理費	26,118,300 円	30,409,212 円	△4,290,912 円	△14.1%
医業費用	8,287,487,939 円	8,594,147,366 円	△306,659,427 円	△3.6%
医業外費用	452,928,015 円	579,364,758 円	△126,436,743 円	△21.8%
特別損失	1,572,613 円	212,515 円	1,360,098 円	640.0%
当期純利益	△1,447,364,210 円	805,370,153 円	△2,252,734,363 円	△279.7%

(3) 資本的収支（税込み）

病院建設事業債の償還、医療機器等を医療機器等更新計画に基づき更新した結果、資本的収支はマイナス 2 億 7,834 万 4,702 円となった。

区 分	令和 5 年度	令和 4 年度	比較増減	増減比率
資本的収入	653,915,000 円	1,747,738,360 円	△1,093,823,360 円	△62.6%
企業債	251,000,000 円	1,343,200,000 円	△1,092,200,000 円	△81.3%
他会計補助金	170,652,000 円	167,229,000 円	3,423,000 円	2.0%
都補助金	52,649,000 円	61,050,000 円	△8,401,000 円	△29.3%
他会計負担金	179,416,000 円	175,881,000 円	3,535,000 円	2.0%
その他投資	198,000 円	378,360 円	△180,360 円	△47.7%
資本的支出	932,259,702 円	2,026,361,657 円	△1,094,101,955 円	△54.0%
建設改良費	271,864,921 円	1,353,599,423 円	△1,081,734,502 円	△79.9%
企業債償還金	660,246,781 円	672,492,734 円	△12,245,953 円	△1.8%
その他投資返還金	148,000 円	269,500 円	△121,500 円	△45.1%
収支差引	△278,344,702 円	△278,623,297 円	278,595 円	△0.1%

(4) キャッシュ・フロー

年度末の資金残高は、総合医療情報システムの支払いに伴い、対前年度比 16 億 4,758 万 4,158 円の減額となった。

区 分	令和 5 年度	令和 4 年度	比較増減	増減比率
業務活動キャッシュ・フロー	△1,393,954,448 円	2,296,414,997 円	△3,690,369,445 円	△160.7%
投資活動キャッシュ・フロー	△246,692,929 円	△1,230,436,070 円	983,743,141 円	△80.0%
財務活動キャッシュ・フロー	△6,936,781 円	1,080,667,266 円	△1,087,604,047 円	△100.6%
資金増減額	△1,647,584,158 円	2,146,646,193 円	△3,794,230,351 円	△176.8%
年度期首資金残高	5,385,636,019 円	3,238,989,826 円	2,146,646,193 円	66.3%
年度末資金残高	3,738,051,861 円	5,385,636,019 円	△1,647,584,158 円	△30.6%